

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470501574		
法人名	株式会社 厚生会		
事業所名	グループホームなのはな		
所在地	三重県津市柳山津興3306		
自己評価作成日	平成27年8月31日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&JigvosvoCd=2470501574-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	平成 27 年 10 月 7 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設に、協力医療機関である、ゆり形成内科整形があり、緊急時にも直ぐに受診が出来、医療度の高い利用者にも安心して過ごしていただけるような体制になっている。誕生会や納涼祭等のレクリエーションや各種研修会を通じて、入居者、職員、地域の方々との交流を深めていくようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

敷地内に母体法人グループの病院・デイサービス・有料老人ホームなどがあり、医療と介護、福祉がうまく連携した中で、それぞれ交流を持ち、利用者や家族が健康面で安心して生活が送れている。事業所での生活は、何事も本人本位での暮らしがされていて、家族的な雰囲気の中職員は常に笑顔で接し、利用者の表情は明るく穏やかであり、生き生きと過ごしている様子が伺える。事業所は母体グループ病院の2階で玄関を挟んで両側にユニットがありお互いに行き来しやすく、室内は掃除が行き届き明るくて、窓越しから見る町並みは利用者の気分転換できる場所になっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を施設内に掲示している。 名札と共に携帯している	「心の癒しを介護の心得」を理念に、具体的なモットー9つを名札に入れ、朝礼の時に唱和するなどして常に心がけている。理念の解釈については、管理者から折にふれ話し、利用者や家族の思いを尊重することで、優しい言葉かけや気配りを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ごみ収集所の清掃への参加 散歩時に挨拶する等交流している。	自治会に加入し、地域の清掃活動に参加している。事業所の行事を地域の掲示板や回覧板で知らせ、落語の会や転倒予防教室などに参加してもらっている。また、ボランティアの慰問や、保育園や託児所の子供、小学生の来所等があり地域の方との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当施設では行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月で行い参加者より助言を頂き、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議は市役所の介護保険課や地域包括、自治会の役員、家族の参加で、2ヶ月ごとに開催している。その中で家族から職員の顔と名前を覚えてほしいという声があり、家族への便りに新しい職員の顔と名前を載せるなど工夫している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当窓口へ訪問し助言を頂いたりしている。	介護保険の更新時や入居の相談時など担当窓口に出向き相談している。また、折にふれ市からの連絡や会議・研修会などにも出席し、連絡を密にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内、外の研修に参加し、日々のケアに取り組んでいる。	管理者、ケア・マネージャー、ユニットの責任者からなる身体拘束検討委員会を年1回以上実施し、身体拘束をしないケアについて確認し、フロー・チャートを作り、新人研修などに活かしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行い、日々のケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用されている方が見えるため、施設内外の研修等へ参加し対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問等に答え説明し納得いただけるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望等を面会時に又は運営推進会議で受け入れ反映させている。	家族には、利用者の生活の様子を毎月写真を添えて送り、日々のかかわりや面会時、遠方の方にはメールで家族と積極的に話す機会を持ち、意見や要望を聞くようにしており、玄関に意見箱も設置してある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に会議を行い意見等を反映させている。	管理者が日頃から食事を作ったり、現場に出て職員の意見を日常的に聞いたり、ミーティングや職員会議などで出た意見を運営に反映している。年1回、個別面談で聞き取りもやっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働ける様努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等を受ける機会を確保し働きながらトレーニングしていく事を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会等に参加し、サービスの質を向上させていくよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学等でご本人の要望を聞き取り関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	関係者より困っている事等を聞き良い関係を作れるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・家族様より考え等を聞き、サービスを含め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	状況に応じて手助け等をして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会等で様子を伝え、情報共有が出来るように努め、本人を支えるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間は定めず、気軽に来所出来るようにしている。	入居後、日の浅い方は近所の友人が面会に来てくれ、一緒に出かける等馴染みの関係が維持されているが、徐々に知人等の面会が少なくなっている。気軽に面会できる雰囲気づくりと合わせ、時にはドライブを兼ね馴染みの場所に出かける支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の意見を尊重し、孤立させないように関係を保てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても今までの関係を大切に、相談できるように支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向を把握できるように努め本位に大切に出来るように努めている。	家族から話を聞いたり、思いを言えない方には日々の表情や態度から思いや意向を把握している。日々接する中でいやな表情になることはしないなど心地よさを察するようにしている。	介護職は利用者個々の興味のありそうなことを誘いかけ、意向を把握するように努力しているが、それを全職員で共有できるしくみや方法を工夫することが望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等、サービス利用までのことを把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活パターンを理解し、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を行い意見交換を行う。現状に即した計画を作成している。	計画作成者が毎月モニタリングし、職員に確認し見直すようにしている。2ヶ月に1度担当者会議をし毎月のモニタリングを総括し、体調に変化があればその都度、変化のない場合においても3ヶ月毎に計画を作成している。主治医やリハビリの先生にも状況をそのつど話し指示を仰いで職員共通のものになっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテ等を活用し、申し送り等で情報を提供して、計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時のニーズに対応し、他サービスとの連携を図り、柔軟な支援とサービスが出来るように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全に豊かな暮らしができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と関係を築き、適切な医療を受けられるように努力し支援している。	家族の同意を得てほとんどの利用者が協力医の診療を受け、定期的に採血をしてもらったり、協力医や看護師も気軽に様子を見てくれる。かかりつけの専門医を希望する人は家族の協力で受診している。家族の希望や医師の指示で、立位維持・筋力維持のリハビリなどもうけている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康状態に留意し、変化ある時は協力医療機関等に連絡して支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との情報交換を行い、環境を整え、受け入れられる様に努力し行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	出来る事を見極め、他機関との連携を行い、支援に取り組んでいる。	重度化した場合の対応指針があり、入居時に説明して家族の希望を聞いている。母体法人のグループに病院や特養等があるので重度化し医療が必要な場合は、家族と相談して基本的にはグループの病院や施設等に移って頂いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時等に備え、対応出来るように、研修等を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難できる方法を職員は身に付けている。自治会を通じ、地域にも協力を働きかけている。	年2回以上防災訓練を実施し、夜間想定訓練や抜き打ち訓練なども行っている。10月に自治会との防災訓練を予定し、地域の方には避難後の見守りをお願いしている。非常時の連絡網も作成しており、事業所に徒歩で数分の圏内に職員が3人おり、避難体制を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、声掛け等に注意し対応している。	利用者個々の尊重と、プライバシーを害しない言動に心掛けている。排泄時の声かけに気を配り、居室に入るときには必ず声をかけるなどプライバシーに配慮している。また、入浴時に希望者には同性介助にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切にして支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の自由にして頂き、困った時に相談等支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しめるように下ごしらえ等を行っている。	介護職員に栄養士がいるので、買い物や献立は栄養士を中心に職員で調理している。利用者は簡単な食材の準備や配膳と一緒にしている。花見やドライブツアーに出かけるときは手作り弁当にしたり、家族との外食もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量のチェックをし状態に応じて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に応じて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの理解に努め、支援を行っている。	排泄チェックシートから排泄パターンの理解に努めると共に、定期的には食事前や食後に、利用者の表情や様子を見て個々のペースに合わせてトイレへ誘導して、昼間は全員トイレで排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事摂取量等を把握し、飲食の工夫や運動への働きかけに取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	大浴場を利用したり、各ユニットの浴室を使用し、その都度対応している。 大浴場で交流ができるようにも支援している。	交流も兼ね階下のデイサービスの大浴場で、午前中に週2回以上の入浴を支援している。また、利用者の希望や体調にあわせ、ユニットにある個浴を利用したり、柚子湯やロビーでの足浴を楽しんだりしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の意思を尊重し、状況に応じ対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを活用し、目的等の理解に努め、心身の変化等の確認し支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の力を活かしていけるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿ってその都度対応している。	事業所の周辺や近所の公園によく散歩に出かけている。また、近所のスーパーでの買い物、季節の花見やなぎさまちへ出かけたりするなど、ドライブを楽しんだりして生活に潤いをもたせている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持、使用を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	意向を尊重し、電話等できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間内で不快や混乱を招くような事が起きないように工夫している。	食堂兼居間は整理整頓され掃除が行き届くと共に、利用者が作った貼り絵や小学生からの手紙が飾られ温かい雰囲気を感じられる。また、ソファや畳のコーナーを設置し、ゆったりくつろげるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内にソファ等を配置し利用者同士が過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や、好みの物を持ち込んでいただき、居心地が良いように工夫している。	居室にはベッド、チェスト、床頭台が設置され、清潔で整理整頓がなされて居心地良くなっているが、各居室とも同じような部屋づくりである。	利用者個々の好みの“家”という雰囲気が出るように、家族協力のもとひと工夫されることを期待する。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な移動等、出来るように手すり等を配置、工夫している。		